



メンデルスゾーン作曲

「エリヤ」について



エリヤはモーゼとともに旧約聖書を代表する預言者です。紀元前9世紀、イスラエルのアハブ王がフェニキアの女王イゼベルと結婚したことから、唯一神ヤーウェを信仰してきたイスラエルに異教のバアル信仰が持ちこまれました。ここからエリヤとバアルの預言者たちとの、壮絶な戦いの火ぶたが切られます。

メンデルスゾーンはこのドラマティックな物語をもとに、壮大で感動的なオラトリオを書き上げました。1846年8月、バーミンガムでの初演は大成功をおさめました。翌年11月、ウィーンでの上演の直前にメンデルスゾーンは38歳でこの世を去ります。晩年の彼が、残された命を注ぎこんだこの大作は、ヘンデル「メサイア」、ハイドン「天地創造」と並び、三大オラトリオの一つとして、今も力強い輝きを放っています。

指揮 広上淳一 Junichi Hirokami



(c) Greg Sailor

東京生まれ。東京音大指揮科に学ぶ。1984年、26歳で「第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクール」に優勝。

以来、フランス国立管、ベルリン放響、コンセルトヘボウ管、モンテリオール響、イスラエル・フィルハーモニー管、ロンドン響、ウィーン響などメジャー・オーケストラへの客演を展開。91～95年にはノールショピング交響楽団、98～2000年にリンブルク交響楽団の各首席指揮者を、97～2001年ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、91～2000年には日本フィルハーモニー交響楽団の正指揮者を歴任している。

近年では、ヴァンクーヴァー響、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー響、ポルティモア響、シンシナティ響、カルガリー・フィルハーモニック、スタヴァンゲル響、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、ポーランド放響、スロヴェニア・フィルハーモニー管、サン・パウロ響等へ客演。06～08年には米国コロンバス交響楽団音楽監督を務めヨーヨー・マ、ミドリをはじめ素晴らしいソリストたちとともに数々の名演を残した。

07年夏にはサイトウ・キネン・フェスティバル松本に招聘され、ハイドンとラフマニノフ、08年5月には小澤征爾の代役として急遽、水戸室内管弦楽団の指揮台にたち、モーツァルト、ベートーヴェンほかのプログラムでともに絶賛を博した。オペラ指揮の分野でも89、90年のシドニー歌劇場におけるヴェルディの《仮面舞踏会》や《リゴレット》が高く評価されたのをはじめ、最近では藤原歌劇団公演《椿姫》、関西二期会公演《フィガロの結婚》、日生劇場《後宮からの逃走》、《利口な女狐の物語》が記憶に新しい。11年2月には新国立劇場に《椿姫》でデビュー。2008年4月より京都市交響楽団常任指揮者。東京音楽大学指揮科教授。



Profile



バス 小玉 晃

Akira Kodama

京都市立芸術大学大学院修了後、渡埃。ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。リートをW. モーア、オペラをR. ニックラー、発声を宮廷歌手M. ニコロヴァに師事。在欧中リサイタルの他、多数の演奏会に出演。バロック作品の歌唱法及び解釈をM.v. エグモントに、リート解釈をH. ホッター、E. アメリング、E. ヘフリガー、W. ベリー他に学ぶ。ベートーヴェン『第九』、バッハ『マタイ受難曲』、『ヨハネ受難曲』、ヘンデル『メサイア』、モーツァルト、ブラームス、フォーレの『レクイエム』他、ソリストを数多く務める。指揮者としての活動にも力を入れており、カンタータやオラトリオは自らオーケストラを指揮しながらソロを歌うなど活動の幅を広げている。また、理論に基づいた発声指導には定評があり、多方面から指導依頼も多い。J.S.G. 国際歌曲コンクール第1位。日本音楽コンクール入選。青山音楽賞、松方ホール音楽賞大賞他受賞。蔵田裕行氏に師事。関西二期会、日本シューベルト協会会員。MBSコンクール審査員。兵庫県立芸文センター合唱団、京響コーラス、パナソニック合唱団、混声合唱団La Fenice、一万人の第九他指導者。大阪音楽大学、同志社女子大学講師。日本ドイツリート協会副会長。http://a-kodama.com

テノール 竹内 公一

Koichi Takeuchi

新潟市出身。東京芸術大学に学ぶ。在学中に「メサイア」のテノールソロでデビューした後、バッハ「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」「カンタータ」、モーツァルト「レクイエム」「戴冠ミサ」、ハイドン「天地創造」「四季」「ミサ曲」、ドヴォルザーク「スタバト・マーテル」などの宗教曲や各地の「第九」のソリストとして多数出演している。オペラでは「アイダ」使者役でデビューの後、東京都民オペラソサエティ公演「さまよえるオランダ人」舵取り役、「オテロ」ロデリーゴ役、「マクベス」マルコム役、新潟県文化振興財団、池辺晋一郎作曲「てかがみ」初演、関西歌劇団「トゥーランドット」ポン役、「ポッペアの戴冠」ネロ役、びわ湖ホール「サロメ」ナザレ人役、新国立劇場「椿姫」ジュゼッペ役などで出演している。「歌の美術館」と題した演奏会を定期的開催し、日本歌曲、ドイツ歌曲をはじめとする歌曲の演奏にも評価を得ている。98年から10年間、びわ湖ホール声楽アンサンブルに所属、現在は東京を中心に主に新国立劇場合唱団で活動している。二期会会員。びわこアーバントロート合唱団指揮者。

ソプラノ 谷村 由美子

Yumiko Tanimura

京都市生まれ。京都市立芸術大学大学院声楽首席修了。びわ湖ホール声楽アンサンブル専属歌手として活躍後、パリ国立高等音楽院大学院、およびパリ国立地方音楽院に留学。著名な音楽家とも数多く共演し、特にコルボ指揮・ローザンヌ声楽アンサンブルとは、「マタイ受難曲」日本ツアーを皮切りに、フォルジュルネ音楽祭などでも度々共演した。2008年、佐渡裕指揮ラムルー管「カルミナ・ブラーナ」のソリストとして抜擢され、パリ・シャンゼリゼ劇場にデビューを果たす。2010年、沼尻竜典指揮大阪センチュリー管のオネゲル「火刑台上のジャンヌダルク」に聖処女・天の声、2011年、広上淳一指揮日フィル定期でカントループ「オーヴェルニュの歌」、昨年8月の井上道義指揮京響定期にはプーランク「スタバト・マーテル」のソプラノソロを好演した。「ベルナック声楽コン」、「プーランジェ国際コン」、「リヨン国際室内楽コン」に優勝、「エリザベト国際コン」セミファイナリストなど、多くのコンクールで優秀な成績を収め、各方面より高い評価を得る。京都青山音楽賞、京都市芸術新人賞受賞。京都芸大専任講師を経て、現在は拠点をフランスに移し、欧州と日本を中心に音楽活動を展開している。

アルト 福原 寿美枝

Sumie Fukubara

京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。卒業時に音楽学部賞受賞。98年度友愛ドイツリートコンクール第2位受賞。00年度日本音楽コンクール入選。オペラは『カルメン』のタイトルロール、『ラ・ファヴォリータ』レオノーラ、『オルフェオとエウリディーチェ』オルフェオ、『アドリアーナ・ルクヴール』ブイヨン公爵夫人、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『タンホイザー』ヴェーヌス、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家にて出演し、08年新国立劇場での同役出演は各方面から絶賛された。同年東京シティフィルの『トリスタンとイゾルデ』のブランゲーネにも出演し好評を得ている。2011年の東京文化会館50周年記念フェスティバル記念オペラ『古事記』ではイザナミ役で出演。教会音楽の分野では、NHK交響楽団定期演奏会でのモーツァルト「レクイエム」をはじめ、新日本フィルハーモニー室内楽シリーズで「ロ短調ミサ」、大阪フィルハーモニー交響楽団定期演奏会「ヨハネ受難曲」の他、多くの宗教曲を歌唱している。その他、マーラー交響曲第2番「復活」や「リュッケルトの5つの歌曲」「大地の歌」などに出演。京都市立芸術大学、同志社女子大学、大阪芸術大学で後進の指導にあたっている。